

別記第1号の2様式（介護職員初任者研修課程関係）

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通学）

事業者名：社会福祉法人櫻灯会

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画				
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数				実施内容
1 職務の理解	6 時間					1 職務の理解
			通学	通信	合計	
		(1) 多様なサービスの理解	3		3	講義及び演習：講義を行い、受講生がグループに分かれて介護保険や保険外サービスについて討議し、身近なサービスについて何があるか発表する。
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3		3	(2) 講義のみ		
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間					2 介護における尊厳の保持・自立支援
			通学	通信	合計	
(1) 人権と尊厳を支える介護		6		6	講義及び演習：講義を行い、受講生がグループに分かれて尊厳を支えるということはどういうことかについて討議し発表する。	
(2) 自立に向けた介護		3		3	(2) 講義のみ	
3 介護の基本	6 時間					3 介護の基本
			通学	通信	合計	
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		3		3	(1) 講義のみ	
(2) 介護職の職業倫理		0.5		0.5	講義及び演習：講義を行い、受講生がグループに分かれて介護職としての社会的責任について検討し発表する。	
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		2		2	(3) 講義のみ	
(4) 介護職の安全		0.5		0.5	講義及び演習：講義を行い、受講生がグループに分かれてストレスマネジメントのあり方等について検討し発表する。	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		9 時間
(1) 介護保険制度		
(2) 障害福祉制度及びその他制度		
(3) 医療との連携とリハビリテーション		
5 介護におけるコミュニケーション技術		6 時間
(1) 介護におけるコミュニケーション		
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション		
6 老化の理解		6 時間
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常		
(2) 高齢者と健康		
7 認知症の理解		6 時間
(1) 認知症を取り巻く状況		
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活		
(4) 家族への支援		

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		9 時間	通学	通信	合計
(1) 同左		5.5			5.5
(2) 同左		2			2
(3) 同左		1.5			1.5
5 介護におけるコミュニケーション技術		6 時間	通学	通信	合計
(1) 同左		3			3
(2) 同左		3			3
6 老化の理解		6 時間	通学	通信	合計
(1) 同左		3			3
(2) 同左		3			3
7 認知症の理解		6 時間	通学	通信	合計
(1) 同左		1			1
(2) 同左		1			1
(3) 同左		2			2
(4) 同左		2			2

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
(1) 講義のみ	
(2) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに分かれて医療行為の考え方や、一定の要件のもと介護職が行える医療行為を検討し発表する。	
(3) 講義のみ	
5 介護におけるコミュニケーション技術	
(1) 講義のみ	
(2) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに分かれて記録の記載方法を体験し、内容・方法を討議し発表する。	
6 老化の理解	
(1) 講義のみ	
(2) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに分かれて疾病の症状や訴え、生活上の留意点などについて討議し発表する。	
7 認知症の理解	
(1) 講義のみ	
(2) 講義のみ	
(3) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに分かれて認知症利用者との関わり方について討議し発表する。	
(4) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに分かれて家族のストレスを理解し、家族の心身疲労防止は何があるか討議し発表する。	

8 障害の理解		3 時間
(1) 障害の基礎的理解		
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		75 時間
ア 基本知識の学習		10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方		
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解		
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
イ 生活支援技術の講義・演習		50~55時間
(4) 生活と家事		
(5) 快適な居住環境整備と介護		
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(9) 入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		
(10) 排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護		

8 障害の理解				3 時間
	通学	通信	合計	
(1) 同左	0.5		0.5	
(2) 同左	2		2	
(3) 同左	0.5		0.5	
9 ころとからだのしくみと生活支援技術				75 時間
ア 基本知識の学習				10 時間
	通学	通信	合計	
(1) 同左	4		4	
(2) 同左	3		3	
(3) 同左	3		3	
イ 生活支援技術の講義・演習				54 時間
	通学	通信	合計	
(4) 同左	5		5	
(5) 同左	5		5	
(6) 同左	7		7	
(7) 同左	7		7	
(8) 同左	7		7	
(9) 同左	7		7	
(10) 同左	7		7	

8 障害の理解		
(1) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに分かれて障害者の抱える生活障害について討議し発表する。		
(2) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに分かれて各障害の特徴や支援について討議し発表する。		
(3) 講義のみ		
9 ころとからだのしくみと生活支援技術		
ア 基本知識の学習		
(1) 講義のみ		
(2) 講義のみ		
(3) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに分かれてボディメカニクスを駆使した介助技術を実践する。		
イ 生活支援技術の講義・演習		
(4) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに分かれて家事支援のやり方について討議し発表する。		
(5) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに分かれて身体状況に合わせた介護や環境整備について討議し発表する。		
(6) 講義及び演習:講義を行い、受講生が着脱介助の実技演習を行う。		
(7) 講義及び演習:講義を行い、受講生がベッドから車椅子への移乗・施設内、外への移動介助の実技演習を行う。		
(8) 講義及び演習:講義を行い、受講生が食事介助の実技演習を行う。		
(9) 講義及び演習:講義を行い、受講生が全身清拭や部分浴の実技演習を行う。		
(10) 講義及び演習:講義を行い、受講生がオムツ体験を行い、パットのあて方、オムツの付け方の実技演習を行う。		

(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7		7	(11) 講義及び演習:講義を行い、受講生がベッドメイキングや体位変換の実技演習を行う。
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	2		2	(12) 講義のみ
(実習) [*] (50～55時間中12時間以内)	(実習) [*] 0 時間			(実習) [*]
介護実習 ○時間				
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間				
在宅サービス提供現場見学 ○時間				
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	ウ 生活支援技術演習 11 時間			ウ 生活支援技術演習
		通学	通信	合計
(13) 介護過程の基礎的理解	6		6	(13) 講義及び演習:講義を行い、個人ワークにて個別援助計画の作成をし、発表する。
(14) 総合生活支援技術演習	5		5	(14) 講義及び演習:講義を行い、本項目(6)～(11)についての再確認を含め、受講生全員に対し実技テストを行う。
10 振り返り 4 時間	10 振り返り 4 時間			10 振り返り
		通学	通信	合計
(1) 振り返り	3		3	(1) 講義のみ
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1		1	(2) 講義及び演習:講義を行い、受講生がグループに分かれてキャリアパスやOJTなどについて討議し発表する。
追加カリキュラム 時間				
計 (130 時間)	計 (130 時間)			

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。